

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	しあわせのたね		
○保護者評価実施期間	令和 7年 1月 23日		～ 令和 7年 2月 10日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	18	(回答者数) 13
○従業者評価実施期間	令和 7年 1月 23日		～ 令和 7年 2月 10日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	4	(回答者数) 4
○事業者向け自己評価表作成日	令和 7年 3月 13日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・当事業所は、様々な障害種の児童が利用されている。色々なハンディキャップがあるお友だちと日頃から触れ合い、障害受け入れが出来る環境である。	・身体にハンディがあり車いすを利用している児童、経管栄養摂取が必要な児童、言葉の発生がない児童などの友だちと触れ合う時間を設けている。子どもたちの「なんで?」という疑問に解りやすく説明を行っている。	・今後も「お友だちのこと」を知る機会を設けたり、保護者様から話を聴く時間や支援学校での生活の様子などを伝えていきたい。
2	・当事業所は母体が障害者福祉施設の為、交代で職員が入り色々な大人と触れ合う機会がある。人への執着や変更の軽減になっている。また、大人の利用者が働いている姿を見ることが出来る。	・身体にハンディがあり車いすを利用している児童、経管栄養摂取が必要な児童、言葉の発生がない児童などの友だちと触れ合う時間を設けている。子どもたちの「なんで?」という疑問に解りやすく説明を行っている。色々な職員と関わることで「いろんな人がいる」という感覚を抱けるよう関わっている。	・高学年の児童には母体のB型作業所や生活介護の施設見学や長期休暇に作業の体験をするなど、色々な仕事があることを知る機会を取り入れた。
3	・現場に保育士経験者が数人いることで、子どもたち対応力、活動内容の工夫、環境構造化など特性に応じた支援が出来ている。また、日々の保護者さん対応の重要性も共有し配慮した対応の実施が出来ている。	・保護者様に連絡するときは良いことから伝え、マイナスな伝達が入りやすいように工夫している。	・保護者様同士の交流を希望される方もいらっしゃるので、組織として検討をしていきたい。

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・感覚統合を鍛えるための道具が簡易的であったり、種類が限られている。	・あるものを工夫しながら取り組んで欲しいと思われる。	・組織として、B型作業所や生活介護の大人の方みんなが使えるような道具があれば児童だけではなく、全体として体幹運動やちょっとしたリフレッシュタイムで活用できると思う。
2			
3			